

日通、エジプトに現法

アフリカに初

アジア－欧州結ぶ物流ハブに

日本通運は21日、エジプトに現地法人を設立すると発表した。来年1月に首都カイロに現法を設立し、アジア－中東欧州を結ぶ物流ハブとする。同社がアフリカに現法を設立するのは初めて。自動車部品や雑貨など様々な企業の物流ニーズに応じていく。

資本金1億3千万円で「エジプト日本通運」を開設する。エジプトはスエズ運河を擁し、アジアと欧州の物流ルートの要衝。欧州市場向けの製品を生産する工場も集積しており、日系メーカーの進出も相次ぐ。

アジアなどから部品の物流需要が高まっていることに対応するため、拠点を築く必要があると判断した。日通としては39か国目の進出先となり、世界にネットワークを巡らすことで企業の国際物流を一手に握る構えだ。（日経産業新聞 2012年12月25日付）

■当資料の情報は信頼できると判断した情報に基づき作成されていますが、情報の正確性、完全性について弊社が保証するものではありません。当資料に掲載されている数値、図表は過去の実績を示したものであり、将来の運用成果および市場環境の変動等を保証するものではありません。■当資料は投資家の皆様に MENA 市場のご理解を高めて頂くために作成した資料であり、証券取引法、投資信託及び投資法人に関する法律に基づく開示資料ではありません。また、特定ファンドの勧誘、販売を目的としたものではありません。■当資料は本来の受信者の社内用途のためだけに提供されています。本資料のいかなる部分も、弊社の事前の書面による同意を得ることなく、その内容の全部または一部を許可なく使用、発信、配布または複写することを固く禁じます。